

下北ジオパーク清掃が行われました

5月21日に北部海岸清掃が、5月25日に尻労浜の清掃が実施されました。

北部海岸は下北ジオパークのジオサイトの1つであり、むつ市から東通村にかけての海岸沿い8kmほどにわたって、およそ12万年前よりも古い時代の地層を観察できます。当日は240人が参加し、海岸を隅々まで綺麗にしました。猿ヶ森砂丘の一部である尻労浜は、鳴き砂やハマボウフウなどの貴重な資源を有するエリアです。当日は地域住民など約130人が参加して、下北ジオパークガイドから猿ヶ森砂丘の特徴などを聞いたあと、海岸に落ちていたペットボトルや流れ着いたロープなどを拾い集めました。



尻労浜の清掃活動



(左から)南谷副会長、小寺会長、畑中村長、氣仙副会長

東通村商工会が畑中村長を表敬訪問

5月27日、任期満了に伴う役員改選で、新たに選出された東通村商工会の会長・副会長らが畑中村長に就任の報告をしました。

小寺将太会長は就任にあたり「会員の会員による会員のための商工会を創り、会員になってよかったと思える商工会を目指します。今後は、SNSや広報にて商工会のお知らせを随時アップしていきますので、ぜひご確認ください！」と抱負を述べました。

東通村漁業連合研究会「スルメイカ 漁況の見通しに係る研修会」を開催

5月28日、村体育館において、村漁業連合研究会（渡部忍会長）主催による「令和6年度スルメイカ漁況の見通しに係る研修会」が行われました。

約25名が参加した今回の研修会では、地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所 漁場環境部 主任研究員 三浦太智氏を講師に招き、近年の漁獲・資源動向や水温分布に基づく漁況の見通しについて講演がなされました。近年のスルメイカ漁の不漁もあり、参加者らは、今年の漁の動向について、真剣に耳を傾けました。スルメイカ漁は、依然として不漁が予想されており、村漁業関係者らは、今後、好漁場が村の沿岸に形成され、見通しを上回る漁になることを切に願っているということです。



講師の三浦氏



研修会の様子



見学の様子

こども園ひがしどおり5歳児 あわび 種苗センター・さくらます孵化場を見学

5月28日、あわび種苗センター及び老部川さくらます孵化場において課外活動の一環で、こども園ひがしどおり5歳児による施設見学、サクラマス稚魚放流体験が行われました。

あわび種苗センターでは、伊柳紀美雄所長から、あわびを始めとした海の生き物について説明を受けながら、実際に触れて学びました。老部川さくらます孵化場では、老部川内水面漁協の坂本和美主任から、サクラマス放流のやり方を教わり、人工河川において稚魚放流が行われました。園児たちは、東通村の豊かな自然に触れ、時には歓声を上げ、笑顔いっぱいでもごしていました。